



帰国生の学校選び A to Z

●第11回●

日ごろから帰国受験を見据えた心構えで生活したい。

間もなく4月。日本人学校や補習校では新学年が始まりますね。このコラムをお読みの方には日本から来られたばかりの方もおられるでしょう。6～7月には帰国するという方もおられるでしょう。いずれにしても米国に滞在する日本人子女の多くは将来的には帰国し、その際に帰国生入試を受験せねばならないという状況に直面する子どもも目立ちます。帰国生入試はすべての学校で実施しているわけではなく、また帰国生の受け入れ態勢も学校によって様々です。また、入試の仕組みも多様化していますので、子どもに合った学校選びをすることがとても大切です。早めに帰国生向けの学校案内情報誌や受験情報誌、学校のウェブサイト、一時帰国の際の学校訪問などを通じて積極的に情報収集をしましょう。

日本には帰るけど、せっかく英語圏に来たので英語をしっかりと習得させたいと思う方も多いでしょう。英語が得意になれば、帰国生入試でも有利になることもありますし、子どもの人生にとって大きな武器にもなりますので、そのためにもバックアップしてあげたいですね。ただし、英語力の伸長には個人差がありますし、現地校の学習だけではなかなか伸びないこともあります。一方、クラブ活動で好きなスポーツや音楽を行うことによって友人ができ、英語力が伸びたというようなケースもあります。家庭教師をつけたり、無理に家庭内でも英語を使ったりしなくも、アメリカでの生活そのものを楽しみながら英語を身につけることをお勧めします。

それと同時に継続してほしいのが日本語での学習です。日本の教科書を利用して学習を進める補習授業校で学習することをお勧めします。それは、日本の学校と同じ内容を一通り網羅するということと、教科書に盛り込まれている当該学年に必要なものの考え方も習得できるからです。また、学校行事を通じて日本の学校と同様な体験をしておくことは、帰国後に日本の学校に順応するために重要です。

執筆者：丹羽 筆人
(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140

